賀茂御祖神社　糺の森発掘調査現地説明会資料

平成１４年２月２６日

賀　茂　御　祖　神　社
財団法人京都市埋蔵文化財研究所

場　　所　史跡賀茂御祖神社境内

調査期間　平成14年１月22日～２月末日

調査面積　約212㎡

調査主体　財団法人京都市埋蔵文化財研究所

はじめに

今回の発掘調査は、昨年実施しました調査と同様に、奈良の小川復元整備計画に伴うものです。調査地は参道の東側で、昨年調査・整備しました地区の東端から泉川の間に位置します。調査区は、平成３年度に京都府ならびに京都市の文化財保護課が実施された試掘調査の成果や調査指導に基づいて設定しました。

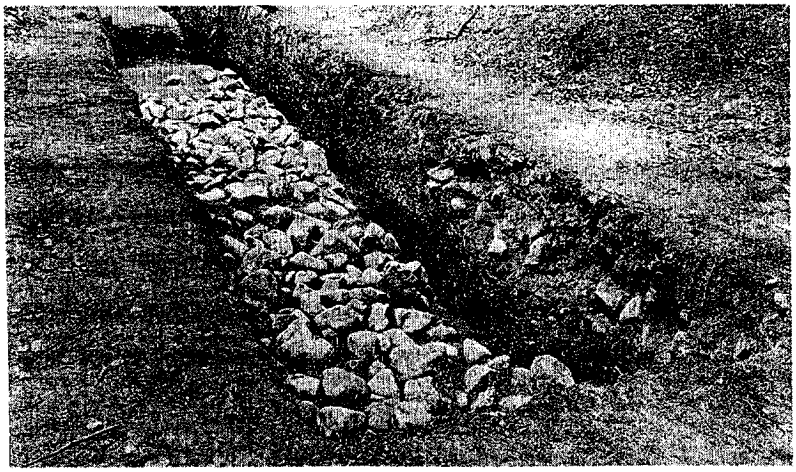
発見した遺構・遺物

遺構　調査の結果、小川跡や石敷き遺構などを検出しました。

小川跡の規模は、幅約３ｍ、深さ0.4～0.7ｍで、東西方向に約32ｍほどの間を明らかにしました。小川と泉川とが分岐する地点では流れの幅が少し広くなっていたようです。

溝内の埋土は、大きく３層に分けることができました。最下層からは平安時代から鎌倉時代の土師器が出土しました。中層や上層からは近世の遺物が出土しました。

石敷き遺構は、川原石を平面的に並べた遺構で、平成３年度の試掘調査でも確認されています。石の中には、敷き詰める際に直線的に並べている箇所が見られます。時期はまだ確定できていませんが、石敷きを覆っている土層からは平安時代後期の瓦や土器が出土していますので、それ以前の仕事と考えられます。性格についてはいろいろと考えられますが、遺構の立地や周囲の環境などからすると祭祀に関係する痕跡かも知れません。



平成３年度の調査で発見された石敷き遺構　（『史跡賀茂御祖神社境内（糺の森）発掘調査報告』からの転載）

遺物　今回の調査では、縄文時代の石器や弥生土器、平安時代の土器や瓦、中・近世の土器類が出土しました。またこの他にも、鏡、鈴、貨銭、土製品なども発見することができましたが、その総量は多くありませんでした。

まとめ

①今回の調査でも、小川の埋土からはほとんど遺物は出土しておらず、何時も清浄な流れであったことが再度確認できました。

②小川の東側と西側との高低差はほとんど認められず、流れはかなり緩やかであったことが想像されます。

③小川は素掘の状態で、護岸を施した痕跡は一切見られませんでした。

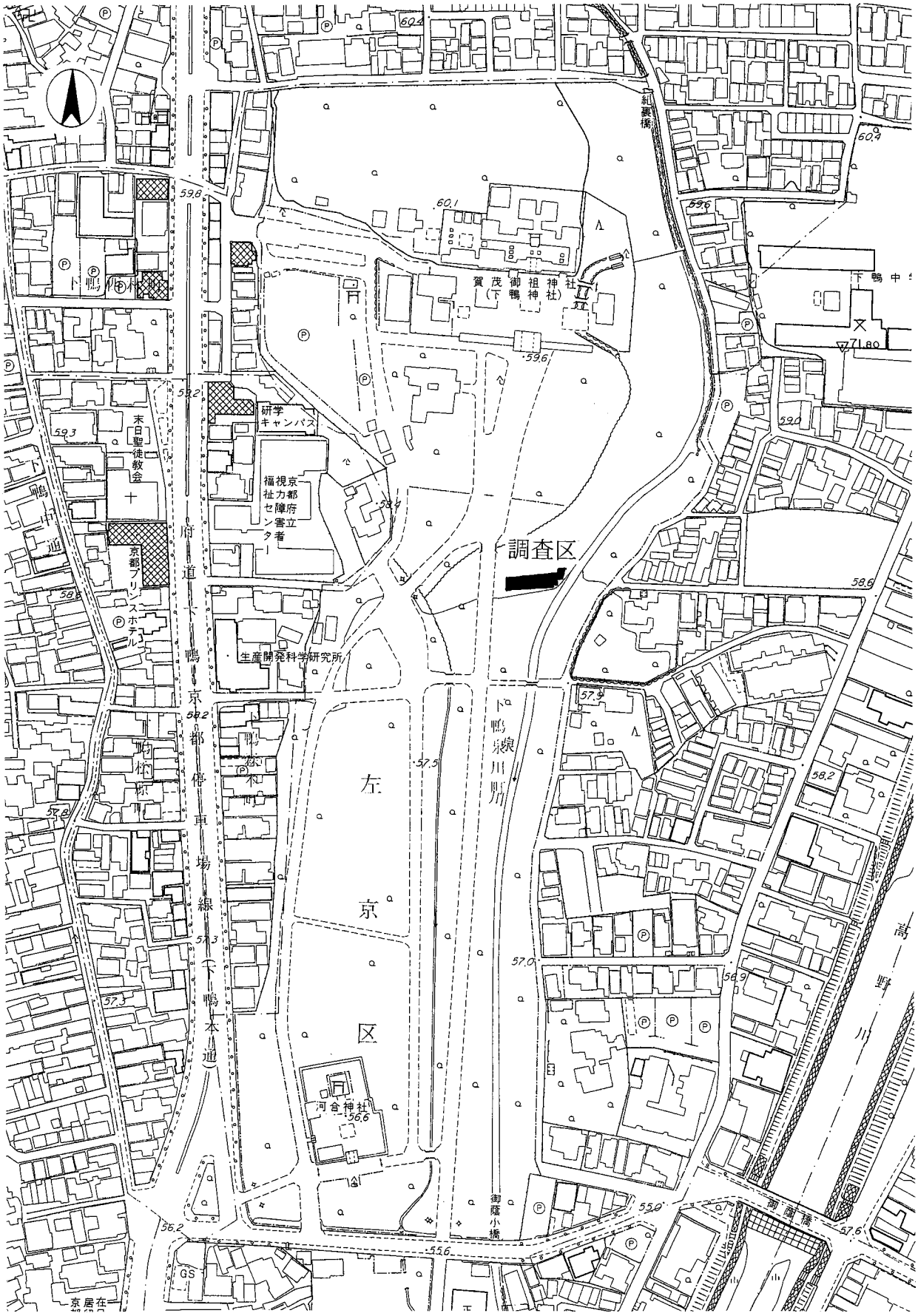
④小川の成立時期については、最下層から平安時代より新しい時期の遺物は出土しておらず、前回の調査成果と同様平安時代後期以前と考えられます。

⑤平安時代後期頃の泉川西岸の一部と川底を確認しました。このことから、小川の川底は泉川の川底よりやや高くなってたことがわかりました。

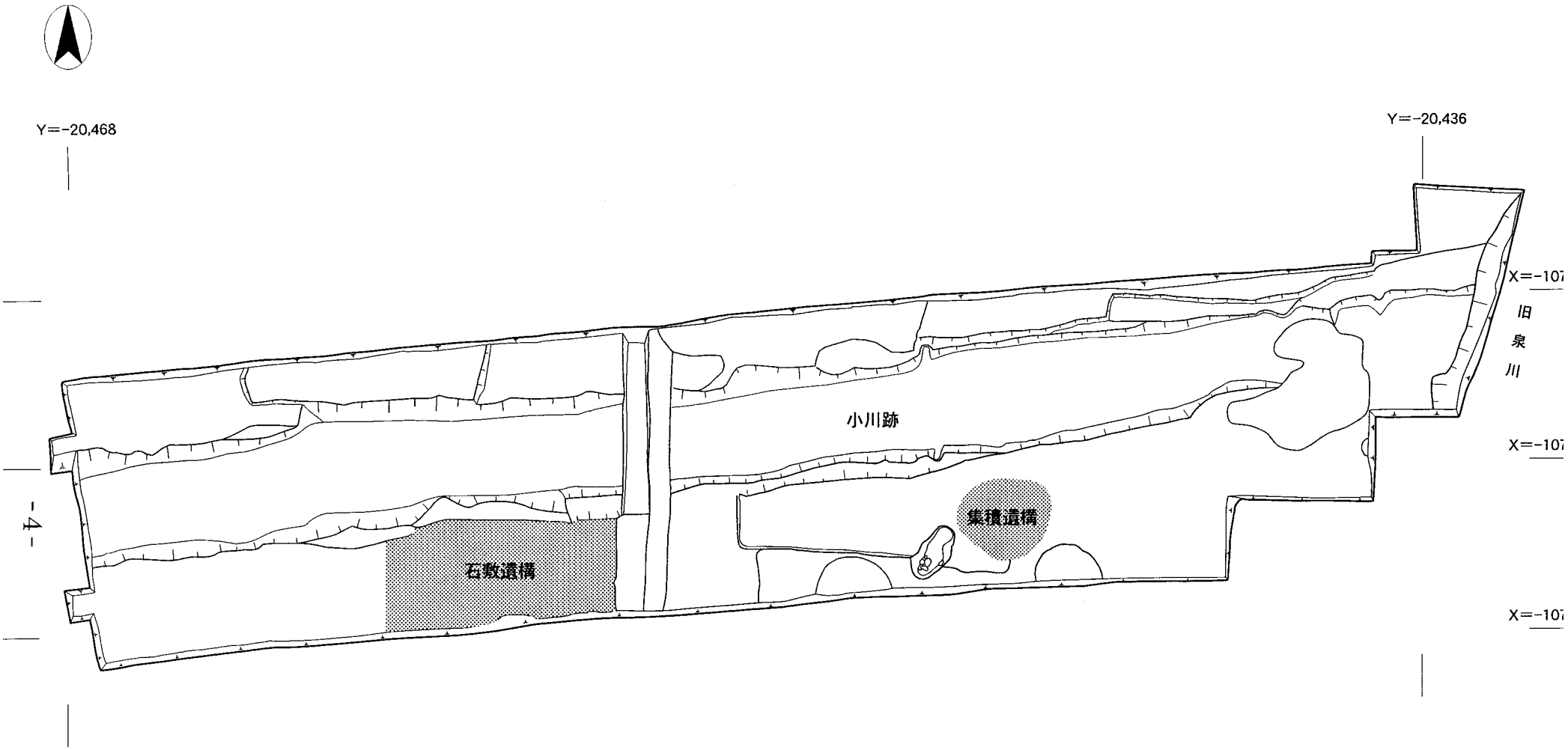
⑥今回の調査では、縄文時代の石器が発見されこの地に古くから人々が生活していたことがわかりました。

⑦小川の周辺では、古くから祭祀がおこなわれていたことわかりました。石敷き遺構も祭祀に関係したものと考えられます。

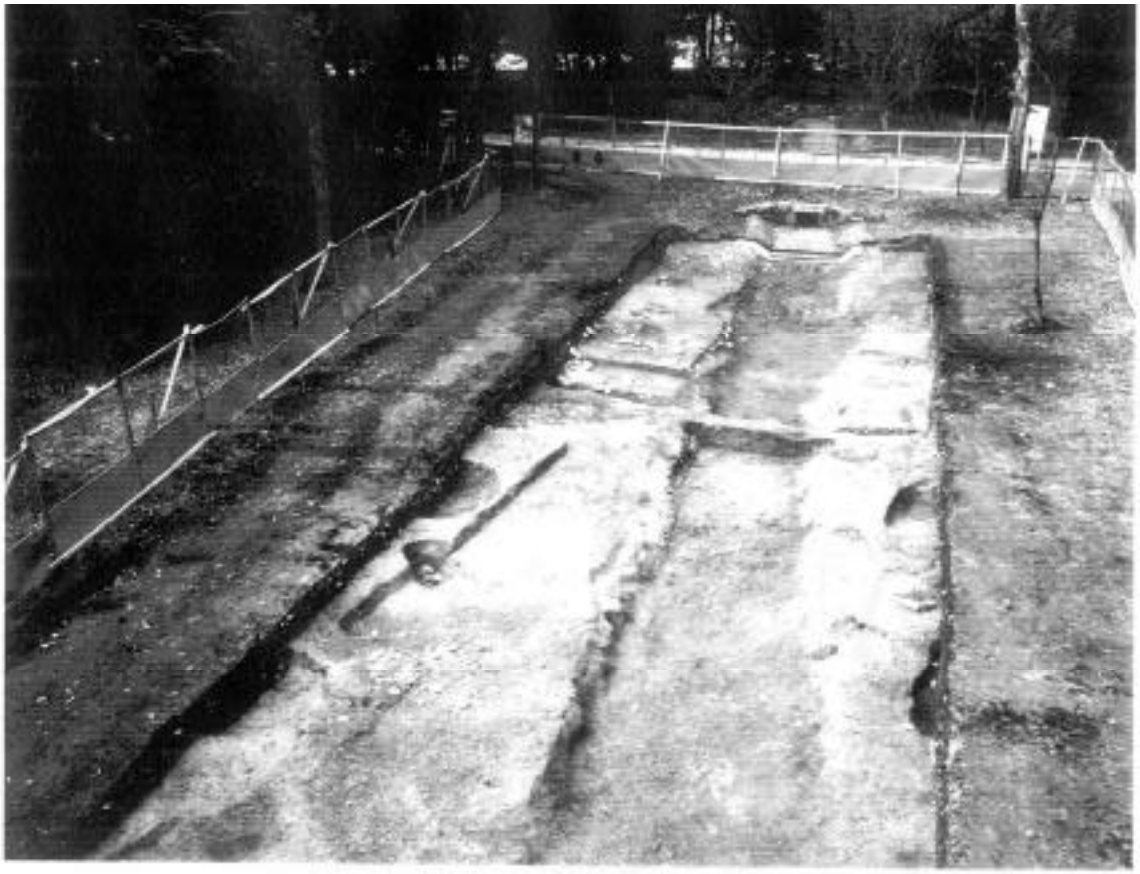
昨年度実施した調査区の全景写真（東から）


調査区
賀茂御祖神社
(下鴨神社)
研学
キャンパス
福祉サービス
京都府立
障害者
センター
末日聖徒教会
京都プリンスホテル
生産開発科学研究所
鴨川
左京区
河合神社
御蔭小橋
南蓮橋
紅葉橋
下鴨中通
京都停車場線(下鴨本通)
府道下鴨
高野川
下鴨線
下鴨中学校
下鴨小学校
下鴨中
GS

調査位置図（1：3,000）

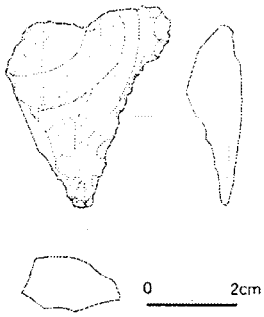


遺構平面図

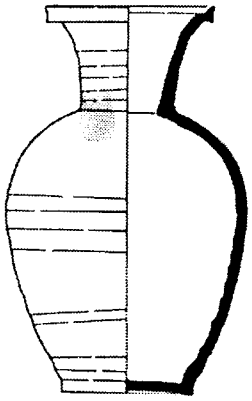


今回の調査区全景（東から）

小川に堆積した土の断面写真（東から）



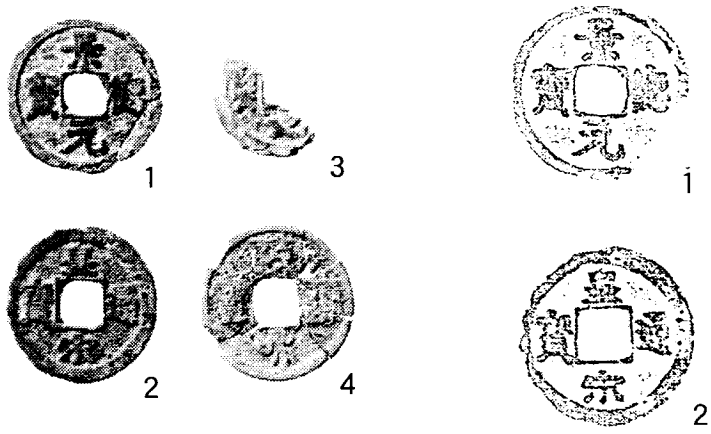
石錐（チャート）縄文時代



瓶子（須恵器）平安時代前期

軒瓦　平安時代後期（縮尺１：２）

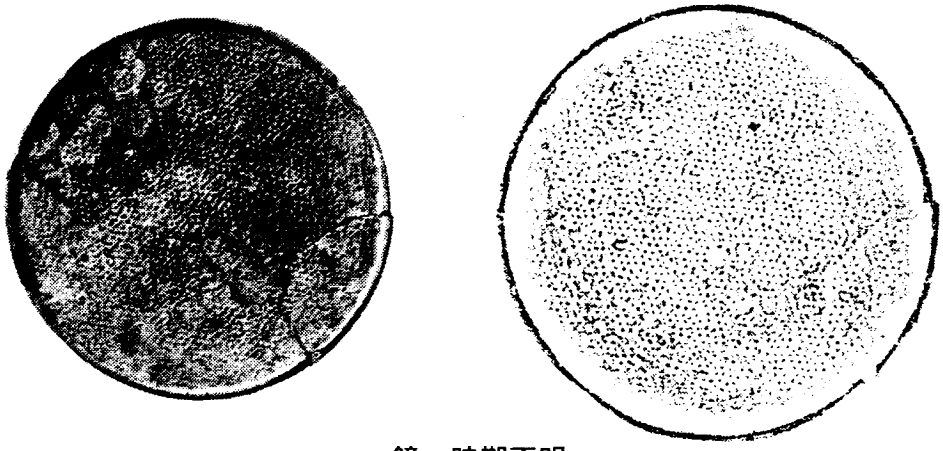
出土遺物１



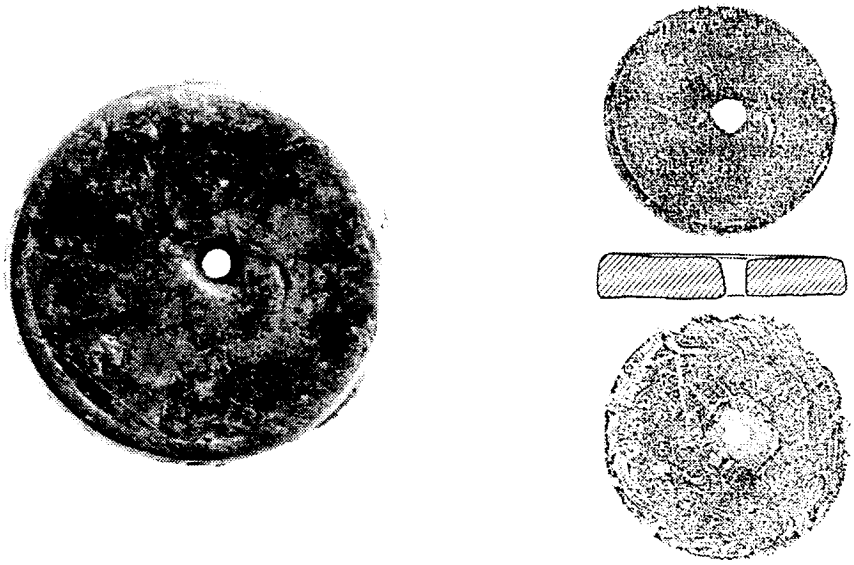
（縮尺１：１）

銭貨　１景徳元寶（北宋、1004年）　２皇宋通寶（北宋、1004年）
　　３不明　　４政和通寶（北宋、1111年）

鈴　江戸時代（縮尺１：１）



鏡　時期不明　（縮尺１：１）



紡錘車形土製品　江戸時代　（縮尺１：２）

出土遺物２